

医療安全 座長総合コメント

座長： 最初の演題は医療安全風土の計測に関するものでしたが、この間の国際会議でも、非常に似た演題が日本の某施設から出ていました。国際会議で必ずしも主流ではないのですけれども、ただ、日本の独特の医療風土の中で、端的に言う情報を隠す等の非常に社会的にまずい状況が、今まで実態としてあったものですから、それに尺度を当てる研究が少しずつ出てきています。

次に、サーベイランスシステムのご発表がありました。これに関しては、社会的にもまだ手が届いていないということを強く感じています。基本的な院内サーベイランスも、こういう言い方は申し訳ないけれども、表層的に「一応やることはやっています」というためのような感じです。やっていないと減算させられるというような診療報酬等との関わりの中で、それなりに実施されている。そういう中で、SSIという手術部位の感染サーベイランスをちゃんとやるためのシステムを開発されたというご発表でした。

3題目については、先程集約しました。